

講義計画書

(シラバス)

2021 年度

第 30 期生

【1 年次】

宮本看護専門学校

学籍番号	氏名
------	----

基礎分野／倫理学

目的：生命倫理の問題は生きる人々の迷いを出発点としているので、現実的な問題にぶつかった時のために、広い視野・深いものの見方を養い、的確な判断ができるための基礎をつくる

授業内容	科学的思考 の基盤	単元	倫理学	講師	海山宏之	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 現代における生命及び医療に関する倫理的な課題を理解する 2. プレゼンテーション方法を身につける							
必携テキスト				準備教材			
				必要ならば以下の冊子を参照のこと 『バイオエシックス入門(第三版)』 東信堂 2001年、今井道夫、香川知晶編。 PC・プロジェクター・個人PC			
評価方法・配点				備考			
客観テスト（点）、レポート（点）等							

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4/19	1. 倫理学とは何か	講義
2	4/26	2. 自分とは何か	講義
3	5/10	3. コミュニケーションと人間	講義
4	5/17	4. 生命倫理学の問題1 どこから人間か？	講義
5	5/24	5. 生殖医療	講義
6	5/31	6. 生命倫理学の問題点2 どこまで人間か？	講義
7	6/7	7. 日本人と遺体	講義・討議
8	6/14	8. 安楽死	講義
9	6/21	9. 職業倫理	講義
10	6/28	10. 生命倫理学の問題点3 医学と生命	講義・討議
11	7/5	11. 死生観と倫理	講義
12	7/12	12. なぜ人を殺してはいけないのか？	講義・討議
13	9/6	13. 生命と環境	講義
14	9/13	14. 総まとめ	講義・討議
15	9/27	終講 テスト	

基礎分野／論理学

目的：物事を論理的に考察し客観的に評価できるような、物の見方・考え方・表現力・伝達能力を養う

授業内容	科学的思考の基盤	単元	論理学	講師	飯嶋 明彦	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 文章を書くことに対する恐れをなくす 2. 読み手に伝わる文章を書けるようになる							
必携テキスト				準備教材 原稿用紙			
評価方法・配点 出席状況・講義都度課題提出（採点）				備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4/19	1. 命題とは何か 作文の方法 作文（自己紹介等）	講義
2	4/26	2. 命題の真偽 命題の逆 作文	討議
3	5/10	3. 命題の裏と真偽 四字熟語 作文	演習
4	5/17	4. 命題の裏と真偽 命題の対偶 言葉の意味	
5	5/24	5. 命題の裏と真偽 命題の対偶 結果を出す文章	
6	5/31	6. 三段論法 短歌の鑑賞文	
7	6/7	7. 三段論法 必要条件十分条件 論拠を示した説得のための文章	
8	6/14	8. 必要条件十分条件 論拠を示した説得のための文章 作文	
9	6/21	9. 文節のかかり方 作文紹介	
10	6/28	10. 文節のかかり方 論理に基づく推論1 熟語の構成 作文	
11	7/5	11. 文節のかかり方 論理に基づく推論2	
12	7/12	12. ベン図 について 慣用句	
13	9/6/	13. ベン図 について個数の処理 作文紹介	
14	9/13	14. ベン図 個数の処理	
15	9/27	15. 総復習 終講テスト	

基礎分野／情報科学

目的：情報処理の方法と統計学の基礎を理解し、看護の情報を科学的に活用できる基礎をつくる

授業内容	科学的思考 の基盤	単元	情報科学	講師	齊藤具子 16+1 富田美加 12+1	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 情報を科学的に整理・分析する方法を学ぶ 2. 医療情報や看護情報を効果的に活用する方法を学ぶ 3. コンピューターを操作し、必要なデータの作成やプレゼンテーションの方法を身につける 4. 看護情報学の基礎を理解する 5. 看護師における情報倫理の重要性を理解する 6. 今後の学習に必要なとなる学術情報の入手及び活用に関する方法を理解する							
必携テキスト 医学書院 情報科学				準備教材 PC・プロジェクター・個人PC			
評価方法・配点 客観テスト 50% レポート 50%				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	6/25	1. 統計的方法と記述統計(一変量) 1) 変数と尺度 2) 度数分布表と度数分布図	斎藤	講義・演習
3・4	7/2	2. 統計的方法と記述統計(一変量) 3) 代表値(平均値, 中央値, 最頻値)		講義・演習
		3. 統計的方法と記述統計(一変量) 4) 散布度(範囲, 分散, 標準偏差, 変動係数)		講義・演習
5・6	7/9	4. 記述統計(二変量) 1) クロス集計表 2) 散布図 3) 共分散と相関係数		講義・演習
		5. 母集団と標本 6. 統計的推定 1) 点推定 2) 区間推定		講義・演習 講義・演習
7・8	7/16	7. 統計的仮説検定 1) t検定		講義・演習
		8. 統計的仮説検定 2) カイ二乗検定		講義・演習
9		9 終講テスト		
10・11	12/3	10. 看護情報学概論 1) 看護学と情報科学の関連 2) 看護における情報の種類と意義		富田
12・13	12/10	11. 看護情報学概論 3) 情報と職業倫理	講義	
14・15	12/17	12. 看護情報学各論Ⅰ 1) 看護実践における情報流通 2) 病院における看護情報システム	講義	
		13. 看護情報学各論Ⅱ 1) 看護教育における情報科学技術の活用 2) 看護研究における情報科学技術の活用	講義	
		14. 看護情報学各論Ⅲ 1) 学術情報利用論	講義	
		15. 看護情報学各論Ⅲ 2) 文献データベースの活用方法	講義	
		レポート		
		テスト		

基礎分野／発達心理学

目的：人間のパーソナリティの発達についての知識を習得し、人間行動の理解に活用する。

- ①自己をよく理解し、自分を冷静に統制する力を養う
- ②他者（患者）の心理をよく理解する

授業内容	人間と生活・ 社会の理解	単元	発達心理学	講師	石井竜介	単位数	1
						時間数	15
学習目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達（発達心理学）についての知識を学ぶ 2. 発達段階と発達課題について理解する 							
必携テキスト				準備教材			
新体系精神看護学①概論と保健メヂカルフレンド社				PC・プロジェクター			
評価方法・配点				備考			
客観テスト 100 点							

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	9/15	1. 発達の概念について理解する 定義・用語・傾向・発達におよぼす因子 発達段階・臨界期・相互作用	講義
2	9/29	2. 発達理論を理解する フロイト・エリクソン・ピアジュ ボウルビー・レビンソン・ハヴィガースト ライフサイクルにおける身体面、精神面、社会面について理解する	講義・ビデオ
3	12/1	3. 乳幼児期 身体の成長・歩行・排泄・ことば・第一次反抗期・感覚運動期・ 前操作期・愛着・自己中心性・基本的信頼・自律性・積極性・情緒	講義 プリント PC ビデオ 教科書
4	12/15	4. 学童期・思春期 ゆるやかな身体の成長・具体的操作期・道徳・学校・仲間関係・遊 びの変化・勤勉性	
5	1/12	5. 青年期 第二性徴・第二次反抗期・情緒・形式的操作期・自我同一性の確 立・親密性・体力的に最大限・両親からの独立・就職	
6	1/19	6. 成人期 結婚・出産・育児・職場・生殖性対停滞・更年期・初老期・人生半ば	
7	1/26	7. 老年期 老化・喪失体験・自助自立・統合性対絶望・死	
8		終講テスト	

基礎分野／生活科学

目的：「生活」の視点から「健康」について考える

授業内容	人間と生活・ 社会の理解	単元	生活科学	講師	齊藤 具子	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 生活そのものを主な対象に、環境や地球を科学の目で俯瞰し人類の福祉に貢献することをめざす。 2. 生活の中で生じた疑問や問題点を自ら解決し、生活の発展・向上に役立て、健康で安全・快適・文化的な生活の創造・提供をめざす。							
必携テキスト 新編生活科学〈第2版〉 東京教学社				準備教材 PC・プロジェクター			
評価方法・配点 客観テスト 50 点、小テスト・課題発表 50 点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4/23	1. 生活と生活科学	講義 DVD グループ活動
2		2. 保健・衛生と生活	
3	5/7	3 運動とエネルギー	
4		4. 食事と生活	
5	5/14	5. 衣服と生活	
6		6. 住まいと生活(1)	
7		7. 住まいと生活(2)	
8	5/21	8. 高齢社会と環境	
9		9. 地球と生活	
10	5/28	10. エネルギー資源と生活	
11	6/4	11. 水と生活	
12		12. 環境と生活	
13	6/11	13. 情報・通信と生活	
14		14. 生命科学と生活	
15	6/18	15. 人間に課せられた今後の課題 終講テスト	

基礎分野／人間関係論（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：個人行動・グループ行動・全体行動を相互作用しながら体験的に人間関係を学ぶ

授業内容	人間と生活・ 社会の理解	単元	人間関係論	講師	正保 春彦 8	岡本 泰子 2	単位数	1
					佐々木 清美 8	(看護師経験 27年)		
					長谷川恵子 6	平野 真紀子 4	時間数	30
					古俣 正治 2	(看護師経験 6年)		
学習目標								
1. 人間関係の意義、社会的相互作用について理解する。 2. 人間関係の見方、形成の仕方、円滑なコミュニケーションをとるための基礎を学ぶ。 3. 創作活動を通して、お互いの個性を認める 4. グループ活動を通して、協調性と責任の大切さを意識できる 5. 全体行動を通して、自己の課題が持てる								
必携テキスト				準備教材				
医学書院 人間関係論								
評価方法				備考				
出席状況・学習態度（50%） レポート（50%）				レポート提出日：2021年 月 日（ ）				

回数	実施日	主な学習内容	担当	授業方法
1	4/16	人間関係について	正保	講義
2		自己理解と他者理解	正保	講義
3	5/7	集団と個人リーダーシップ	正保	講義
4		人間関係を作る理論と技法 コミュニケーションの基礎	正保	講義
5	4/13	ストレス対応について	古俣	講義
6	5/	読みとることと表現すること	岡本	講義
7	6/	地域をつくる人間関係（1）	平野	講義
8	6/	地域をつくる人間関係（2）	平野	講義
9 (8h)	9/	レクリエーション理論 レクリエーション実技	佐々木	講義 実技
10	6/ (4h)	みんなのできる！心をひとつにまとめる集団行動（1）	長谷川	実技
11		みんなのできる！心をひとつにまとめる集団行動（2）	長谷川	実技
12	7/	みんなのできる！心をひとつにまとめる集団行動（3）	長谷川	実技・発表

基礎分野／英語 I

目的：英文に親しみ、読解力を維持し、国際社会に適応できる語学力の基礎を身につける

授業内容	人間と生活・ 社会の理解	単元	英語 I	講師	城倉 純子	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 健康や医療、福祉に関連する英文を読み、内容を理解する 2. 主に英米の医療事情や、医療に関連した文化についての理解を深める 3. 医療・福祉に偉大な貢献をした外国の人々の業績文献に触れ、医療従事者としてのモチベーションを高める 4. 医療英語の理解を通し、外国人患者とのコミュニケーション能力を高める							
必携テキスト				準備教材			
MatherTeresa-love is Action 三友社 キュアとホスピタリティの英語 I 弓プレス				CD DVD (マザーテレサ、ローマの休日など) CD デッキ			
評価方法・配点				備考			
客観テスト 100 点							

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4/15	・英語学習についてのオリエンテーション (英語と日本語、英文法の復習、筆記体ほか) ①	講義
2	4/22	(英語と日本語、英文法の復習、筆記体ほか) ② MatherTeresa	講義と演習
3	5/6	MatherTeresa① “New 20 Healthcare Dialogs”①	講義 講義と演習
4	5/13	MatherTeresa② “New 20 Healthcare Dialogs”②	
5	5/20	MatherTeresa③ “New 20 Healthcare Dialogs”③	
6	5/27	MatherTeresa④ “New 20 Healthcare Dialogs”④	
7	6/3	MatherTeresa⑤ “New 20 Healthcare Dialogs”⑤	講義と視聴 講義と演習
8	6/10	MatherTeresa⑥ “New 20 Healthcare Dialogs”⑥	
9	6/17	MatherTeresa⑦ “New 20 Healthcare Dialogs”⑦	演習と視聴 講義と演習
10	6/24	MatherTeresa⑧ “New 20 Healthcare Dialogs”⑧	
11	7/1	MatherTeresa⑨ “New 20 Healthcare Dialogs”⑨	
12	7/8	MatherTeresa⑩ “New 20 Healthcare Dialogs”⑩	
13	7/15	MatherTeresa⑪	
14	9/2	MatherTeresa⑫	
15	9/9	総復習 終講テスト	

基礎分野／保健体育 I

目的: 運動することで集中力を高め、運動生理学的な知見によりスポーツをより科学的に捉えていく。

授業内容	人間と生活・ 社会の理解	単元	保健体育 I	講師	長谷川恵子	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 生涯にわたる自己の健康管理とスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を習得する。 2. 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 3. 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を身に付ける。							
評価方法・配点				準備教材			
A～Cの合計点を100点換算 A 試合結果・技術テスト・授業態度を踏まえた評価点 B 運動適正テスト得点 C ダンス評価点				救急セット2・ワイヤレスマイク&スピーカー バレーボール・ネット他器具・空気入れ・拡声器			
備考							
①学校指定のトレーニングウェア着用 ※6～9月のみハーフパンツ可 ②運動するのにふさわしい身だしなみ（装飾品は外す・髪の毛の長い人はまとめる） ③個人の準備物：講義資料・A4クリップボード・筆記用具・タオル・飲み物・アルコール除菌 ④体育館への移動・ネットの準備・片付けは、速やかに行う。 ⑤貴重品は、持って行かない。							

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4/23(金) 2限	1. 運動やスポーツにおける健康・安全の確保（効果的なストレッチ法） 2. 熱中症の分類と運動時の対策 3. スポーツ傷害とスポーツ現場での応急処置（PRICE 処置）	講義 【教室】
2	4/27(火) 1限	1. 体幹について（体幹年齢チェック・トレーニング含む） 2. バドミントン技術練習（ストローク3種 フォア&バック） 3. 卓球ゲーム（2G 時間で入替）	実技
3	5/18(火) 2限	1. コンディショニングチェック 2. バドミントン技術練習（ストローク3種 フォア&バック） 3. 卓球ゲーム（2G 時間で入替） 4. ラジオ体操の歴史・効果・作用する部位	実技
4	5/27(木) 3限	1. 運動適正テスト ①立幅とび ②腕立伏臥腕屈伸 ③時間往復走 ※④上体起こしは自宅で測定	適正テスト
5	6/8(火) 3限	1. バレー技術練習（オーバー&アンダーハンドパス・サーブ） 2. バレーボールゲーム	実技 技術テスト
6	6/23(水) 2限	1. バレー技術練習（オーバー&アンダーハンドパス・サーブ） 2. バレーボールゲーム	実技 技術テスト
7	10/14(木) 2限	1. ダンスの基本ステップ 2. ダンス創作（個人ワーク）	実技 【講堂】
8	10/18(月) 2限	1. ダンス発表会	技術テスト 【講堂】
9	11/9(火) 1限	1. 縄跳び（短縄&長縄） 2. 輪投げリレー	実技
10	12/2(木) 4限	1. バスケ技術練習（ハンドリング・パス・ドリブル・シュート） 2. バスケゲーム	実技 技術テスト
11	12/15(水) 2限	1. バスケ技術練習（ハンドリング・パス・ドリブル・シュート） 2. バスケゲーム	実技 技術テスト
12	1/11(火) 1～2限	1. バドミントン ダブルストーナメント 2. 体幹年齢チェック ◆4hカウント	実技
13	2/8(火) 1～2限	1. 1年生4チーム対抗運動会 2. 評価表まとめ ◆4hカウント	実技
■毎授業後に学習の成果（試合結果・技術テスト結果等）を自己評価表に記入し、提出する。			

基礎分野／文化講座 I

目的：感性を磨き、創造性を培う

授業内容	人間と生活・ 社会の理解	単元	文化講座 I	講師	岩田彩華 他	単位数	1
						時間数	15
学習目標 1. 自己で課題をみつけるために必要な情報収集ができる 2. 課題を解決するために必要な方法(プロセス)を考え、形にすることができる 3. 主体的に学習を進め、楽しく取り組むことができる 4. 社会人として、看護学生としてルールを守り取り組むことができる							
準備教材 パソコン、調べ学習で使用する資料等(各自準備)							
評価方法・配点 出席・態度 30点 自己評価 30点 提出課題(内容) 40点							

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4月	学習から学修？ 学修をするということとは	講義
2		血液の役割 赤血球・白血球・血小板ってどんな役割？ 企画書作成	演習
3		循環について	調べ学習
4		演習を通して肺循環・体循環を理解する！	演習
5		国家試験問題に挑戦！合格のための学習方法を学ぼう！	調べ学習
6			GW
7			
7.5		発表会 まとめ ※発表スタイルは自由	発表

専門基礎分野／解剖生理学 I

目的：身体の部位や臓器の名称と構造を知り、それらが人の生命・生活になぜ必要なのかについて学ぶ。

授業内容	人体の構造と機能	単元	解剖生理学 I	講師	鈴木 隆二 16	単位数	1
					田村 孝史 12		
					平野真紀子 2	時間数	30
					(看護師経験 6 年)		
学習目標 1. 人体を構成する原子と分子の基本について復習する。 2. 栄養素が何処でどのように吸収され、エネルギーに変換されるかを理解する。 3. エネルギーの燃焼に必要な酸素と炭酸ガスが吸収運搬される構造を学ぶ。							
必携テキスト 「系統別看護講座」 医学書院 専門基礎 1、解剖生理学				準備教材 PC・パワーポイント			
評価方法・配点 客観テスト 100 点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	4/	1. 解剖生理学の概念と基礎知識（原子と分子）	鈴木	講義
3・4		2. 口・咽頭・食道の構造と機能		
5・6		3. 腹部消化器官の構造と機能		
7・8		4. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能		
9	4/14	1. 呼吸器の構造	田村	
10	5/12			
11	5/26	2. 呼吸とガス交換		
12	6/9			
13	6/23	3. 血液		
14	7/14			
15		まとめ	平野	
		テスト		

専門基礎分野／解剖生理学Ⅱ

目的：身体の部位や臓器の名称と構造を知り、それらが人の生命・生活になぜ必要なのかについて学ぶ。

授業内容	人体の構造と機能	単元	解剖生理学Ⅱ	講師	宮本和宜 20 石井徳恵 2 平野真紀子 8	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 生命活動を支える体内の物流システムのメカニズムを理解する。 2. 身体内部や外部から侵入する有害物質を処理する防御機構を学ぶ。 3. 生殖・発生と老化のしくみを理解する。							
必携テキスト 「系統別看護講座」 医学書院 専門基礎 1、解剖生理学				準備教材 PC・パワーポイント			
評価方法・配点 客観テスト 100 点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	10/4 10/11	1. 心臓の構造	宮本（和）	講義
2	10/18	2. 心臓の拍出機能		
3	10/25			
4	11/1	3. 末梢循環器系の構造		
5	11/8			
6	11/29	4. 血液の循環の調節		
7	12/6			
8	12/13 12/20	5. 生体防御		
9		6. 泌尿器		
10		7. 生殖器①		
11	12/2	8. 生殖器②	石井	講義
12 13 14 15	1/	9. 発生と老化	平野	講義
		テスト		

専門基礎分野／解剖生理学Ⅲ

目的：身体の部位や臓器の名称と構造を知り、それらが人の生命・生活になぜ必要なのかについて学ぶ。

授業内容	人体の構造と機能	単元	解剖生理学Ⅲ	講師	田村孝史 12	単位数	1
					宮本泰典 16 東邦大学講師 2		時間数
学習目標 1. 体を構成する骨組みの詳細を学ぶ。 2. 骨格を動かす筋系の詳細を理解する。 3. 身体活動を一定に保つホメオスタシスのメカニズムを理解する。							
必携テキスト 「系統別看護講座」 医学書院 専門基礎 1、解剖生理学 解剖生理学ワーク 医学書院				準備教材 PC・パワーポイント			
評価方法・配点 客観テスト 100 点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	9/8	1. 体液の調節と尿の生成①	田村	講義
2	9/22	2. 体液の調節と尿の生成②		
3	10/13	3. 内分泌器官①		
4	10/27	4. 内分泌器官②		
5	11/10	5. ホルモン調節①		
6	12/8	6. ホルモン調節②		
7	4/20	7. 骨と関節①	宮本(泰)	講義
8	4/27	8. 骨と関節②		
9	5/11	9. 体幹と上肢①		
10	5/18	10. 体幹と上肢②		
11	5/25	11. 下肢と頭蓋①		
12	6/1	12. 下肢と頭蓋②		
13	6/8	13. 筋の収縮・体表から見た人体構造①		
14	6/15	14. 筋の収縮・体表から見た人体構造②		
15	10/29	解剖見学 (東邦大学医学部解剖学教室)	東邦大学	
		テスト		

専門基礎分野／解剖生理学Ⅳ

目的：身体の部位や臓器の名称と構造を知り、それらが人の生命・生活になぜ必要なのかについて学ぶ。

授業内容	人体の構造と機能	単元	解剖生理学Ⅳ	講師	井口俊大 18	単位数	1
					原 成輝 10	時間数	30
学習目標 1. 情報発信機構の詳細を理解する。 2. 視覚・聴覚・皮膚感覚により周囲の変化を感知する機構を学ぶ。 3. 筋系を動かす神経系の詳細を理解する。							
必携テキスト 「系統別看護講座」 医学書院 専門基礎 1、解剖生理学				準備教材 PC・パワーポイント			
評価方法・配点 客観テスト 100 点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	10/13	1. 神経系の構造と機能 (興奮と伝導)	井口	講義
2	10/20	2. 脊髄と脳		
3	10/27	3. 脊髄神経と脳神経		
4	11/10	4. 高次脳機能		
5	12/1	5. 運動機能と下行伝導路		
6	12/8	6. 感覚機能と上行伝導路		
7	12/15	7. 皮膚と疼痛		
8	1/12	8. 眼の構造と視覚		
9	1/19	9. 耳の構造と聴覚・平衡覚		
10	2/17	10. 人体の構造と機能 総まとめ①～⑤	原	講義
11				
12				
13	2/24			
14				
15		まとめ	平野	
		テスト		

専門基礎分野／生化学

目的：生体物質と物質代謝を理解し、疾病時における生化学的考察ができる能力を養う

授業内容	人体の構造と機能	単元	生化学	講師	戎野 棟一	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 生体を構成する物質の種類と性質を理解する 2. 生体内での物質代謝を理解する 3. 疾病時における代謝の変化を理解する							
必携テキスト わかりやすい生化学 第5版 疾病の代謝・栄養の理解のために ニューベルヒロカワ				準備教材 PC・パワーポイント			
評価方法・配点 客観テスト（100点）				備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	4/15	1. 生化学とは 生体構成物質 アミノ酸の種類	講義
2	4/11	2. アミノ酸の性質 糖質の定義と種類	
3	5/6	3. 糖質の性質	
4	5/13	4. 脂質と核酸の種類と性質	
5	5/20	5. 酵素	
6	5/27	6. 糖質の代謝	
7	6/3	7. 脂質の代謝	
8	6/10	8. 蛋白質の代謝	
9	6/17	9. 核酸の代謝と遺伝情報	
10	6/24	10. 遺伝情報の発現	
11	7/1	11. ビタミン ホルモン	
12	7/8	12. 体内の水と酸・塩基平衡	
13	7/15	13. 体内の無機質の種類と役割	
14	9/2	14. 臓器の生化学	
15	9/9	終講 テスト	

専門基礎分野／微生物学

目的：微生物を医学的側面から理解し、その対策・対応について学ぶ

授業内容	疾病の成り立ち と回復の促進	単元	微生物学	講師	西澤智康	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 微生物の種類と特徴および生体におよぼす影響を理解する 2. 病原微生物による感染と発病について理解する 3. 感染症の予防と治療について理解する							
必携テキスト ヌーベル 「ビジュアル微生物学」				準備教材 PC・パワーポイント			
評価方法・配点 客観テスト（100点）				備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	6/1	1. 微生物学のあゆみ	講義
2	6/8	2. 微生物の基礎	
3	6/22	3. 感染と感染症	
4	6/29	4. 細菌学	
5	7/6	5. 真菌学	
6	9/28	6. ウイルスとプリオン	
7	10/5	7. 殺菌・消毒	
8	10/12	8. 抗微生物剤	
9	10/19	9. 免疫学	
10	10/26	10. 感染症対策（院内感染を含む）	
11	11/2	11. 主な病原細菌と細菌感染症	
12	11/9	12. 主なウイルスとウイルス感染症	
13	11/30	13. 主な病原原虫と原虫感染症	
14	12/7	14. 主な病原真菌と真菌感染症	
15	12/4	終講 テスト	

専門基礎分野／病理学 I（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：生体に現れる変化を理解し、病気のメカニズムと治療論について学ぶ

授業内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単元	病理学総論	講師	澤田 達男 10 内山 聡 4 宮本泰典 12	田中秀行 2 平野真紀子 2 (看護師経験 6 年)	単位数	1
							時間数	30
学習目標								
1. 症状の成り立ちを、その形態学的変化を総論的に学ぶ 2. 主な疾患の病態生理・原因・症状と経過、検査と治療を理解できる 骨・関節・筋疾患、歯科・口腔疾患、乳腺疾患								
必携テキスト					準備教材			
医学芸術社 医学書院…「病理学」「系統 10」「系統 15」 「系統臨外各論」					PC・パワーポイント			
評価方法・配点					備考			
客観テスト 100 点								

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	9/7	1. 病気と病理学（病因論）	澤田	講義
2		2. 細胞・組織の障害と修復		
3	9/14	3. 循環障害		
4		4. 炎症と免疫、移植と再生医療 5. 感染症 6. 先天異常と遺伝子異常 7. 環境による疾患		
5		8. 腫瘍 9. 生活習慣病 10. 難病		
6	11/2	11. 骨・関節・筋の仕組み	宮本（泰）	講義
7	11/9	12. 骨・関節・筋の主な症状		
8	11/30	13. 骨・関節・筋の診断		
9	12/7	14. 検査・治療		
10	12/14	15. 骨折・捻挫・脱臼の治療と原則		
11	1/11	16. 下肢の外傷、四肢の疾患		
12	12/2	17. 歯科・口腔系の疾患・検査・治療	内山	講義
13	12/16			
14	12/2	18. 乳腺の疾患・検査・治療	田中	講義
15		19. まとめ	平野	
		テスト		

専門基礎分野／病理学Ⅱ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：生体に現れる変化を理解し、病気メカニズムと治療論について学ぶ

授業内容	疾病の成り立ち と回復の促進	単元	病理学Ⅱ	講師	吉田 正 18 宮本和宜 10 平野真紀子 2 (看護師経験6年)	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 主な消化器疾患の病態生理・原因・症状と経過・検査と治療を理解する 1) 保存的治療の適応となる主な消化器疾患 2) 外科的治療の適応となる主な消化器疾患 2. 栄養代謝性疾患の病態生理・原因・症状と経過・検査と治療を理解する。 3. 主な腎・泌尿器疾患の病態生理・原因・症状と経過・検査と治療を理解する							
必携テキスト				準備教材			
医学書院…「系統5、6」「系統臨外各論」 「系統8」				PC・パワーポイント			
評価方法・配点				備考			
客観テスト 100点							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	10/5	1. 消化器疾患理解のための基礎知識	吉田	講義
2	10/12	2. 食道の疾患と治療		
3	10/19	3. 胃・十二指腸の疾患と治療		
4	10/26	4. 小腸・大腸の疾患と治療		
5	11/2	5. 肝臓の疾患と治療		
6	11/9	6. 胆道・膵臓疾患と治療		
7	11/30	7. 糖尿病・肥満症・脂質異常症・痛風の治療		
8	12/7	8. 外科的治療の適応となる主な消化器疾患 ・食道アカラシア・食道がん		
9	12/14	・胃・十二指腸潰瘍・胃がん ・ヘルニア・腸閉塞・腸管ポリープ・大腸がん ・肝細胞癌・肝内胆管癌・転移性肝がん ・胆石症 ・膵炎・膵がん ・手術療法 腹腔鏡		
10	1/17	9. 腎・泌尿器疾患理解のための基礎知識	宮本	
11	1/24			
12	2/7	10. 腎疾患と治療		
13	2/14			
14	2/21	11. 泌尿器疾患と治療	平野	
15		まとめ		
		テスト		

専門基礎分野／病理学Ⅲ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：生体に現れる変化を理解し、病気のメカニズムと治療論について学ぶ

授業内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単元	病理学Ⅲ	講師	岡田浩介 16 稲垣雅春 4	田辺裕二郎 8 平野真紀子 2 (看護師経験6年)	単位数	1
							時間数	30
学習目標								
1. 主な呼吸器疾患の病態生理・原因・症状と経過・検査と治療を理解する 2. 主な循環器疾患の病態生理・原因・症状と経過・検査と治療を理解する								
必携テキスト				準備教材				
医学書院…「系統2」「系統臨外各論」 「系統3」「系統臨外各論」								
評価方法				備考				
客観テスト 100点				試験日 平成 年 月 日 ()				

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	10/28	1. 呼吸器疾患の理解のための基礎知識	岡田	講義
2	12/9	2. 呼吸器疾患の診断と治療法		
3	1/13	3. 保存的治療の適応となる主な呼吸器疾患		
6 7	12/9	4. 外科的治療の適応となる主な呼吸器疾患	稲垣	
8 9 10 11	9/29 10/20 12/15 1/19	5. 循環器疾患理解のための基礎知識 6. 循環器疾患の診断と治療法 7. 保存的治療の適応となる主な循環器疾患	田辺	
12 13	2/10	8. 外科的治療の適応となる主な循環器疾患	岡田	
14 15		呼吸器疾患・循環器疾患まとめ	平野	
		テスト		

専門基礎分野／薬理学

目的：患者の最も近いところにいる看護師として必要な安全で有効な「薬」の使い方に関する知識を得る

授業内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単元	薬理学	講師	大原久子他	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 薬理学の基礎知識を得ることにより、薬物療法の適正な使用法を学び、安全な薬物療法のための知識を得る 2. 薬物の使用機序、薬物の効果及び複数薬物併用の効果などについて理解し説明できるようにする							
必携テキスト 薬理学 医学書院				準備教材			
評価方法・配点 客観テスト（100点）				備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	7/1	総論	講義
2	7/8	1. 薬理学を学ぶにあたって 1) 薬理学とはなにか 2) 薬による病気の治療 2. 薬理学の基礎知識 1) 薬が作用するしくみ 2) 薬の体内の挙動 3) 薬物相互作用 4) 薬物使用の有益性と危険性 5) 薬と法律	
3	7/15	各論 3. 抗感染症薬	
4	9/2	4. 抗がん薬	
5	9/9	5. 免疫治療薬	
6	9/16	6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬	
7	9/30	7. 末梢での神経活動に作用する薬物	
8	10/14	8. 中枢神経系に作用する薬物	
9	10/21	9. 心臓・血管系に作用する薬物	
10	10/28	10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	
11	11/4	11. 物質代謝に作用する薬物	
12	11/11	12. 皮膚科用薬・眼科用薬	
13	1/6	13. 救急の際に使用される薬物・漢方薬	
14	1/13	14. 消毒薬・輸液製剤・輸血剤	
15	1/20	15. 看護業務に必要な薬の知識 テスト	

専門分野 I / 看護学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)

目的：看護の概念をとらえ、看護の本質や機能を理解する

授業科目	基礎看護学	単元	看護学概論	講師	岡本泰子 (看護師経験 27 年) 28 城倉 純子 2	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 看護実践に必要な諸概念を理解する (看護・人間・健康・環境) 2. 主な看護理論を学び、看護への活用方法を理解する 3. 看護者の基本的責務を理解し、対象者へ個別性のある看護を考えることができる							
必携テキスト				準備教材			
看護学概論 医学書院 やさしい看護理論 MC メディカ 看護者の基本的責務 日本看護協会出版 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護覚え書 現代社							
評価方法				備考			
客観テスト (70%) レポート (20%) 出席・態度 (10%)							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法	
1	4/	看護師とは何をやる職業なのだろうか 「誰のため」に看護するのか 「何のため」に看護するのか	岡本	講義・GW	
2		看護の本質・役割と機能		事前学習 レポート①	
3		①看護の定義 ②看護ケア ③看護の役割 ④看護の変遷			
4		看護の対象の理解 (危機理論)			
5		①人間の心とからだ ②人間理解 ③人間の暮らし ④危機の定義・特徴 ⑤不安と危機			
6		健康のとらえ方			
7		①健康とは ②障害とは ③健康の全体像			
8		看護職の資格制度 ① 看護師養成制度と課題 ② 継続教育とキャリア			
9		看護提供の仕組み ① サービスとしての看護 ② 看護サービス提供の場			
10		看護における倫理 ① 倫理について ②医療倫理 ③ 倫理問題			レポート②
11		看護をめぐる制度と政策 ① 看護制度 ②看護政策 ③看護サービスと経済			
12		看護理論 ① ヘンダーソン ②ナイチンゲール ③オレム		レポート③	
13		基礎実習反省会			
14		テスト			
15	1/20	国際看護	城倉		

専門分野 I / 看護技術 I (実務経験のある教員等による授業科目)

目的：看護活動の基盤となる共通基本技術について学ぶ

授業科目	共通基本技術	単元	看護技術とは コミュニケーション	講師	野原恵美 (看護師経験 11 年) 6 砂長久枝 (看護師経験 11 年) 24	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 看護技術を看護実践の中で活用することの意味と看護実践の基盤となる考え方について学ぶ 2. 看護の場におけるコミュニケーションのあり方について学び、コミュニケーション技術の実践への活用方法を理解する							
必携テキスト				準備教材			
医学書院…基礎看護技術 I 医学書院…人間関係論 医学書院・・・看護コミュニケーション							
評価方法				備考			
客観テスト (70%) レポート (20%) 出席・態度 (10%)							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1 2 3	4/	1. 技術とは ①知識・技術・技能の関連 ②看護技術の独自性 ③看護実践とクリティカルシンキング ④技術習得の過程 ※2 回目の授業は、宮本病院にて看護師のシャドウウォッチングと環境の観察を実施する。	野原	講義
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	4/	2. コミュニケーションとは 3. コミュニケーションの種類 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 4. 医療におけるコミュニケーション ①看護面接 5. 効果的なコミュニケーションの実際 ①傾聴の技術 ②情報収集 オープンエンドクエスチョンとクローズドクエスチョン ③アサーティブネス ④ロールプレイ 5. コミュニケーション障害 6. プロセスレコード 7. シャドーイング	砂長	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習
15		テスト		

専門分野Ⅰ／看護技術Ⅱ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：看護活動の基盤となる共通基本技術について学ぶ

授業科目	共通基本技術	単元	観察・記録・報告 学習支援 救命	講師	岩田彩華 28（看護師経験8年） 砂長久枝 2（看護師経験11年）	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 看護における観察・記録・報告の意義を学び、効果的な観察・記録・報告技術を習得する 2. 看護における学習支援の意義を学び、効果的な教育・指導技術を習得する 3. 命を守る知識と技術を習得する							
必携テキスト				準備教材			
医学書院…基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ							
評価方法				備考			
客観テスト（70%） 課題・レポート（20%） 授業態度・提出状況（10%）							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	4月	観察とは	岩田	講義・演習
2		看護過程とクリティカルシンキング		
3		看護過程の各段階 観察の意義 情報の種類（S. O情報）		
4	7月	アセスメントの枠組		
5	9月	・ヘンダーソン14項目		
6		看護記録		
7	11月	意義・目的・方法・種類		
8		報告		
9		意義・目的・方法		
10	11月	個人情報保護 守秘義務・法的責任について		講義
11		看護記録の実際		
12		1) データベース 3) フローシート		
13		2) 経過記録 4) 看護要約		
14	12月	2. 学習支援		
15	6月	1) 看護における学習支援		
		2) 健康に生きることを支える学習支援		
		3) 健康状態の変化に伴う学習支援		
		①外来における学習支援		
		②入院時		
		③退院時		
		4) 看護の中に含まれる学習支援		
		個人指導・家族指導		
		集団指導		
		5) 事例（指導計画・ロールプレイ）		
		普通救命	砂長	講義 演習
		1) 心肺蘇生法		

専門分野Ⅰ／看護技術Ⅲ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：対象を全人的・多角的に捉え、看護上の問題抽出や看護計画の立案・実施につなげるためのヘルスアセスメントの技術を習得する

授業内容	看護技術	単元	ヘルスアセスメント	講師	岩田彩華 (看護師経験8年)	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 日常生活行動から考えるヘルスアセスメントの意義と目的を理解する 2. 看護にバイタルサインの意義を理解し、その観察・計測の技術を習得する							
必携テキスト 日本看護協会出版会…日常生活行動から見るヘルスアセスメント 医学書院…基礎看護技術Ⅱ 基礎臨床看護技術				準備教材 モデル人形「フィジコ」 聴診器・血圧計・時計などの必要物品がある為確認する			
評価方法				備考			
客観テスト(技術試験・筆記テスト含) 70%				事前課題、身だしなみ等の準備が整わない、使用する物品等を忘れてきた場合は演習に参加できない			
授業態度(出席状況・授業態度) 20%							
事前課題(提出状況と内容) 10%							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	4月	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは フィジカルイグザミネーションとは	岩田	講義
2		フィジカルアセスメントに必要な技術 (問診法・視診法・聴診法・触診法・打診法)		講義 グループワーク
3・4		バイタルサインの観察とアセスメント 体温測定・脈拍測定・呼吸数・血圧測定・意識レベル ～基礎知識・基礎技術～		講義・演習
5・6		バイタルサイン技術 ～基本的な技術確認～		演習
7・8	6月	バイタルサイン技術試験	協力教員	
9		系統別フィジカルアセスメント ①呼吸系	岩田	講義・演習
10		系統別フィジカルアセスメント ①循環器系		
11		系統別フィジカルアセスメント ①消化器系		
12	9月	患者さんを観察しよう ～シミュレーション学習～	協力教員	シミュレーション 学習
13				
14		まとめ (観察項目・観察する視点・観察方法を振り返る)		
15		終講テスト	岩田 岩田	

専門分野Ⅰ／看護技術Ⅳ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：対象にとって安楽・安寧をめざした看護を提供するための援助技術を習得する

授業科目	安楽・安寧の技術	単元	安楽・活動と休息 嚥法、危篤・終末・ 死亡時の看護	講師	吉田友子 22 (看護師経験 21年)	塚本浩平 2	単位数	1
					岩田彩華 2 (看護師経験 8年)	池田 洋子 4 (看護師経験 11年)		
学習目標								
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における活動・休息の意義を理解できる 2. 対象を生活者と捉え、必要な看護援助を判断できるプロセスを理解する 3. ボディメカニクスを正しく活用し、効率よく、安全で安楽な看護援助技術を習得できる 4. 活動・休息のメカニズムやその重要性を理解できる 5. 嚥法の目的・生体への影響を学び効果的な嚥法の方法を習得する 6. 危篤・終末期にある人とその家族の悲しみを理解し、対象者が尊厳ある死を迎えるための看護の役割を理解する 7. 援助を受ける対象の思いを理解し、看護師としての役割を理解できる 								
必携テキスト					準備教材			
医学書院…基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎・臨床看護技術					DVD			
評価方法					備考			
塚本・岩田・池田（各 10 点） 吉田（70 点） 客観テスト：50 点 態度面：10 点 課題(レポート)：10 点								

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	4月	1.活動・運動の基礎知識 2.活動・運動のアセスメント・援助方法	吉田	講義
2	4月	1.休息・睡眠の基礎知識 2.休息・睡眠のアセスメント・援助方法	吉田	講義
3 ・ 4	5月	1.ボディメカニクス・人間工学の基礎知識 2.体位と安楽 ・安楽な体位保持(ポジショニング) ・同一体位による弊害	吉田	講義 演習
5	5月	1.体位と移動の援助の基本知識 2.体位変換のアセスメント・援助方法	吉田	講義 演習
6	6月	1.体位と移動の援助方法 ・体位変換・保持、移動のための援助 ・安全・安楽な体位変換・保持	吉田 協力教員	演習
7 ・ 8	6月	1.車椅子移乗 2.歩行介助	吉田 協力教員	演習
9 ・ 10	7月	1.車椅子移送 2.ストレッチャー、担架の移乗・移送 3.歩行介助（麻痺 杖 視覚障害 歩行器）	吉田	演習
11	7月	演習の振り返り・まとめ	吉田	講義
12	9月	関節可動域(ROM訓練)良肢位 運動障害がある患者への移乗技術	塚本	講義
13	9月	嚥法の目的・援助技術	岩田	講義 演習
14 15	10月	1. 危篤・終末・死亡時の看護 1) 死亡の動向と場所 2) 死に行く人と周囲の人々へのケア 3) わが国の風習に根づく死後の処置のあり方 4) 死後の処置	池田	講義 DVD GW
		終講テスト		

専門分野Ⅰ／看護技術Ⅴ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：対象が生活する療養環境について理解し、衣生活や清潔の保持などの支援を行うための基本的な清潔、衣生活、環境調整の援助技術を習得することができる。

授業科目	基礎看護学	単元	病床環境の調整 衣生活・身体の清潔	講師	野原恵美（看護師経験11年）10 高城利恵（看護師経験13年）20	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 看護における環境の捉え方の視点を理解する 2. 室内の環境条件を理解し、安全・安楽・自立を考えた環境の調整方法について習得する 3. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する 4. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ 5. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の手順を学ぶ							
必携テキスト				準備教材			
基礎・臨床看護技術…医学書院 基礎看護技術Ⅱ…医学書院				演習時確認			
評価方法				備考			
客観テスト他							

回数	実施日	主な学習内容	授業方法	担当者
1	4/	1. 環境とは 1)人と環境 2)療養生活と環境 2. 療養環境の条件	講義	野原
2	4/	3. 健康生活の維持・増進や疾病の回復のための生活環境のアセスメントと調整 1)入院患者を取り巻く生活環境 4. 入院生活における病床環境の調整、整備の方法	講義	
3 4 5	5/	5. ベッドメイキング 臥床患者のシーツ交換 実際の療養環境を見てみよう	演習 他	
6	6/	6. 清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識 ・皮膚、粘膜の構造と機能 ・清潔援助の効果 ・患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	
7 8	7/	②清潔の援助の実際 ・入浴、シャワー浴 ・全身清拭	講義 演習	
9	7/	・洗髪	講義 演習	高城
10	9/	・手浴 ・足浴とフットケア	講義 演習	
11	9/	・整容 ・口腔ケア	講義 演習	
12	10/	7. 病床での衣生活の援助 ①衣服を用いることの意義 ②援助の実際 ・病衣の選び方 ・病衣・寝衣の交換	講義	
13	10/	事例展開（全身清拭） 患者をアセスメントし、援助方法を考える。	個人・グループワーク	
14 15	10/	事例展開（全身清拭） グループで検討した方法を実践する。	演習	
		テスト（学科、実技）		

専門分野Ⅰ／看護技術Ⅵ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：対象にとっての食べる事・排泄することの意義を理解し、対象に応じた適切な食事援助・排泄援助を実施するための基本的な技術を習得する

授業科目	看護技術	単元	栄養と食事・排泄	講師	野原 恵美 (看護師経験11年)	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
1. 人間にとっての栄養と食事の意義を理解する 2. 栄養状態及び摂食能力のアセスメント方法を理解する 3. 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取方法について看護の視点から考え、効果的な援助方法を習得する 4. 人間にとっての排泄の意義を理解する 5. 排尿・排便に関するメカニズム、アセスメント方法を理解し、対象者に適した排泄援助の方法を習得する 6. 食事・排泄の援助について看護の基本的姿勢や役割について理解する							
必携テキスト				準備教材			
基礎・臨床看護技術…医学書院 基礎看護技術Ⅱ…医学書院 看護の基本となるもの…日本看護協会出版会				演習ごとに準備物品の確認をしてください			
評価方法				備考			
客観テスト				事前学習、身だしなみ等の演習に臨む準備が整わない場合は演習に参加できない事があります			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	6/	1. 食事とは 栄養と食事の意義 2. 食事援助の基礎知識	野原	講義 グループワーク
2		1) 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント (食欲と消化吸収 摂食・嚥下のメカニズム) ① 栄養状態のアセスメント ② 水分・電解質バランスのアセスメント ③ 食欲のアセスメント ④ 接触・嚥下能力のアセスメント ⑤ 摂食行動のアセスメント		
3		⑥ 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 3. 食生活の基本的援助 看護の役割 4. 食事摂取の介助（経口摂取） 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 3) 摂食・嚥下障害と援助栄養状態のアセスメント 4) 摂食・嚥下訓練		
4	7/	5. 食事介助 1) 右麻痺、嚥下障害の患者の食事介助 2) 視力障害のある患者の食事介助		講義・演習 グループワーク
5				
6	9/	6. 非経口栄養法 経腸栄養・静脈栄養		講義 演習 グループワーク
7		7. 経管栄養法の演習		
8		1) 胃管の挿入、固定、確認方法 2) 栄養剤の注入準備、滴下数の計算		
(2.5)				
9	9/	8. 排泄とは 排泄の意義 9. 排泄のメカニズム 10. 排泄のアセスメントと援助方法 11. 失禁の種類と援助方法 12. 排泄における看護の役割		講義 演習 グループワーク
10	9/	13. 排泄の援助・床上排泄・便器尿器・おむつ交換・腹部マッサージ		講義・演習 グループワーク
11		14. トイレ、ポータブルトイレ・尿器での援助		
12	10/	15. 浣腸・排便		講義・演習 グループワーク、
13		陰部洗浄		
14	10/	16. 導尿		講義・演習 グループワーク
15		1) 一時的導尿 2) 持続的導尿		
		テスト		

専門分野 I / 看護技術 VII (実務経験のある教員等による授業科目)

目的：診療・検査の補助介助における看護の役割と援助の方法を習得する

授業科目	診療・検査に伴う技術	単元	診療・検査・与薬 (採血) 包帯法 吸入・吸引・洗浄	講師	古畑貴子 24 (看護師経験 14 年)	単位数	1
					池田洋子 4 (看護師経験 11 年)	時間数	30
学習目標 1. 診察・検査における看護師の役割と看護の実際について理解する 2. 与薬・注射技術の生体への影響と援助方法を習得する 3. 包帯法を使用する意義・目的について理解し、患者の負担軽減・安全に留意した包帯法を習得する 4. 吸入吸引・洗浄の原理・原則を理解し、生体に与える影響を考慮して効果的な援助方法を習得する							
必携テキスト 基礎・臨床看護技術…医学書院 基礎看護技術Ⅱ…医学書院				準備教材 演習時に確認			
評価方法 客観テスト (70%) レポート (20%) 態度・出席評価 (10%)				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	9/	1. 与薬	野原	講義
2		1) 薬物療法における看護師の役割		講義
3		2) 薬物療法の基礎知識		デモストレーション
4		①経口②口腔内③直腸内座薬④経皮的与薬⑤点眼⑥点鼻		演習・講義
5		3) 注射の基礎的知識		
6		4) 注射 (注射器の取り扱い・薬液の吸い上げ・注射法)		
7		皮内注射・皮下注射		
8		筋肉注射の実際		
9		静脈注射・点滴静脈注射		
10		滴下数の計算とクレンメによる自然滴下		講義・演習
11		5) 輸血時の看護		講義・演習
12	2/	2. 包帯法	砂長	講義 演習
13	2/	1) 包帯法の意義・目的・原則・留意点	池田	講義 演習
14		2) 包帯法の基本的な巻き方		
		3) 観察		
		3. 吸入・吸引・洗浄		
		1) 吸入・吸引の基礎知識		
		2) 酸素 ①取扱い ②酸素ポンベの残量の計算		
		3) ネブライザー		
		4) 吸引 ①口腔 ②鼻腔 ③気管		
		5) 洗浄の基礎知識 (胃)		
15		終講テスト		

専門分野 I / 臨床看護総論（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：看護の対象となる人々、特に健康障害をもつ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方とその実際を学ぶ

授業科目	臨床看護総論	単元	臨床看護総論	講師	増尾真由美 22 (看護師経験8年) 相澤 宏実 2	佐藤絹代 2 小泉 尚紀 2 諸岡とし江 2	単位数	1
							時間数	30
学習目標 1. 看護の対象を理解する 2. 経過別看護、主要症状を示す患者の看護、治療・処置・検査を受ける患者の看護について、事例を用いて理解する 3. シミュレーション学習を行うことで患者の状況（症状・治療・経過など）に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。								
必携テキスト メディカ出版…臨床看護総論 学研…看護過程に沿った対象看護				準備教材				
評価方法 客観テスト 演習評価				備考				

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	1/	臨床看護総論とは 看護とは	増尾	講義
2		事例 シミュレーション学習のための事前学習	増尾	グループワーク
3		臨床看護総論を理解するための事例①②	増尾	講義 グループワーク 演習
4		シミュレーション学習 (グループワーク・ロールプレイ・発表 デブリーフィング)	増尾 担当	シミュレーション
5				
6				
7				
8		シミュレーションを行っての学びの発表 まとめ		発表 講義
9				
10				
11 (0.5コ)		事例で学ぼう		
12	2/18	創傷処置を必要とする患者の看護	相澤	講義
13	2/16	終末期の看護、痛みのある患者の看護	佐藤	講義
14	2/10	臨床検査とは	諸岡	講義
15	1/13	看護に活用する医療機器の原理	小泉	講義
		テスト		

専門分野Ⅱ／成人看護学概論（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：成人期にある対象を理解し、健康問題とその看護の方法を学ぶ

授業科目	成人看護学	単元	成人看護学概論	講師	吉田 友子 (看護師経験 21年)	単位数	1
						時間数	15
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期における対象の特徴を理解できる 2. 生活習慣やライフステージと、健康問題との関連を理解できる 3. 経過別に応じた看護の基本となる考え方や方法論について理解できる 4. 成人学習の概念と行動変容を促す看護アプローチについて理解できる 5. 看護と社会資源について理解できる 						
必携テキスト	成人看護学総論メディカ出版			準備教材			
評価方法	態度面：5点 レポート：10点 客観テスト：85点			備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	10/	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学の構成 2. ライフステージによる分類 3. エリクソンの発達理論による発達段階の特徴 4. 成人期にある人の発達の特徴 5. 成人期の役割 	講義
2		<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期のある人の生活からとらえる健康 2. 生活と健康を守るシステム 	講義
3		<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康レベル 2. 成人学習の概念(アンドラゴジーモデル) 3. 人間関係論 4. ヘルスプロモーション 	講義
4		<ol style="list-style-type: none"> 1. 急激な健康破綻に陥った人の特徴 2. 急激な健康破綻に陥った人の看護の特徴 3. 主体的療養行動の重要性 4. 侵略に対する生体反応 5. 合併症予防と早期回復のための看護 6. ストレスコーピング理論 7. 危機理論 8. 適応理論 	講義
5		<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性患者の特徴 2. 慢性患者の看護 3. 病みの軌跡 4. セルフケア理論 5. エンパワメント理論 6. 自己効力理論 	講義
6		<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害とは 2. 障害を持つ人の認識過程 3. 看護の特徴 	講義
7		<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養の場の移行に伴う看護援助の必要性 2. 退院支援とは何か 3. 退院支援活動 	講義
8		終講テスト	

専門分野Ⅱ／老年看護学（概論）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を理解すると共に、社会の変化が高齢者に及ぼす問題と老年看護の役割を学ぶ

授業内容	老年看護学	単元	老年看護学概論	講師	高城 利恵 (看護師経験13年)	単位数	1
						時間数	15
学習目標 1. 老年期における身体的・心理的・社会的変化から老いるということ、老いを生きるということについてかんがえることができる 2. 高齢社会と社会保障について理解することができる 3. 老年看護の成り立ちと役割が理解できる 4. 高齢者看護に関わる諸理論について理解することができる							
必携テキスト 老年看護学				準備教材			
評価方法 客観テスト レポート				備考			

回数	実施日	主な学習内容	授業方法
1	9月	1) 老いるということ、老いを生きるということ ①加齢と老化 ②加齢に伴う身体的側面の変化 ③加齢に伴う心理的側面の変化 ④加齢に伴う社会的側面の変化	講義
2		⑤高齢者の定義 ⑥発達と成熟 ・老年期の発達課題 ・スピリチュアリティ ・健康と生活	講義
3		2) 超高齢者社会と社会保障	講義
4		①超高齢社会の現況②高齢者と家族③高齢者の健康状態④高齢者の死亡⑤高齢者の暮らし	GW
5		3) 高齢者の権利擁護 ①高齢者に対するスティグマと差別 ②高齢者虐待 ③身体拘束	講義
6		4) 老年看護の成り立ち ①老年看護学教育の発展 ②老年看護の定義	講義
7		5) 老年看護の役割 ①注目すべき4つの側面 ②老年看護の特徴 ③老年看護学における理論・概念の活用 ・離脱理論と活動理論 ・サクセスフルエイジング ・選択最適化補償理論 ・ニード論 ・危機理論 ・セルフケア理論 ・コンフォート理論 ・ストレングスモデル 6) 老年看護に携わる者の責務 ・高齢者のための国連原則	講義
8		テスト	

専門分野Ⅱ／老年看護学（方法Ⅰ）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：高齢社会における社会保障について学ぶと共に、高齢者の健康逸脱からの回復を支えるために、高齢者の疾患・症状に対する診断・治療について学ぶ

授業科目	老年看護学	単元	方法Ⅰ (高齢者の疾患の特徴)	講師	(医師) 須磨崎加寿子 10 岡田浩介 4 宮本泰典 2	塚本浩平 2 高城利恵 12 (看護師経験13年)	単位数	1
							時間数	30
学習目標								
1. 高齢社会の保健医療福祉について理解する 2. 高齢者の疾患の特徴を理解する 3. 高齢者の疾患や症状に対する診断・治療について理解する 4. 地域で生活する高齢者を理解する								
必携テキスト				準備教材				
医学書院…老年看護学病態・疾患論 老年看護学								
評価方法				備考				
客観テスト レポート				福祉施設見学は身だしなみ・事前レポート等が整わない場合、参加できないことがあります。 高齢者のリハビリテーションには体操服等の準備をしてください				

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	1/11	1. 高齢社会と社会保障 1) 高齢社会における保健医療福祉の動向 ①高齢者とソーシャルサポート ②保健医療福祉システムの構築	須磨崎	講義
2	1/18	i 保健医療福祉制度の変遷 ②介護保険制度の整備 ③高齢者医療のしくみ	須磨崎	講義
3	1/25	2. 高齢者の生理的特徴 2) 認知・知覚機能の老化 3. 老年症候群	須磨崎	講義
4	2/8	1) おもに急性症状に付随する症候 ①意識障害 ②せん妄 2) おもに慢性疾患に付随する症候 ⑤睡眠障害 ⑥抑うつ 4. 高齢者の疾患の特徴	須磨崎	講義
5	2/15	1) 精神・神経疾患 2) 認知症	須磨崎	講義
6	3/10	5. 高齢者の生理的特徴 1) 老化と寿命 2) 呼吸・循環機能の老化 ①呼吸機能の老化 6. 高齢者の疾患の特徴 3) 呼吸器系の疾患 7. 高齢者の生理的特徴 4) 呼吸・循環機能の老化 ②循環機能の老化 8. 高齢者の疾患の特徴 5) 循環器系の疾患	岡田	講義
7	3/10	9. 老年看護に求められるものとは 1) 高齢者医療の現場における現状と課題 2) 高齢者医療の目標設定・エンドポイント 10. 高齢者のフィジカルアセスメント 1) 在宅でのフィジカルアセスメント 11. 高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア 1) 終末期における入院医療と在宅医療の連携（在宅医療支援） 2) エンドオブライフケア 3) 高齢者医療におけるチーム医療	岡田	講義
8	2/9	12. 高齢者の生理的特徴 1) 運動機能の老化 13. 老年症候群 1) おもにADL低下に合併する症状 ①転倒・骨折 14. 高齢者の疾患の特徴 1) 運動器の疾患	宮本 (泰)	講義
	2/4	15. 高齢者のリハビリテーション 1) 腰痛症と四肢関節痛のリハビリテーション 2) 寝たきり患者のリハビリテーション 3) 介護予防のリハビリテーション	塚本	講義
10	2月	16. 生活・療養の場における看護の展開 1) 保健医療福祉施設および居住施設における看護	高城	講義
11		2) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	高城	講義
12		3) 多職種連携実践による活動		
13				
14		2) 認知症サポーター養成講座	外部講師	講義
15		終講テスト	高城	

専門分野Ⅱ／小児看護学（概論）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：小児の成長・発達について理解し、社会の変化が小児にどのように影響しているかを考え、疾患や障害をもつ小児と家族の看護を学ぶ

授業科目	小児看護学	単元	概論・保健	講師	野原 恵美 (看護師経験11年)	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 現代の子どもと家族の概況をとらえ、小児看護の役割と課題を理解する。 2. 小児の成長・発達を理解する。 3. 小児の各発達段階における成長・発達・健康・家族・看護について理解する。 4. 子どもと家族を取り巻く社会について理解する。 5. 母子保健の動向と小児保健統計について理解する							
必携テキスト 医学書院 小児看護学（1） 小児看護学概論・小児臨床看護総論				準備教材 インターメディカ 写真でわかる小児看護技術アドバンス			
評価方法 客観テスト90点 出席・態度10点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	8月	1. 小児看護の対象	野原	講義
		2. 小児看護の目標と役割		DVD
2		3. 小児と家族の諸統計		講義
		4. 小児看護の変遷		
		5. 小児看護における倫理		
3		6. 小児の成長・発達		講義
		7. 成長・発達の進み方		
		8. 成長・発達に影響する因子		
		9. 成長の評価		
4. 5		10. 子どもにとっての栄養の意義。		講義
		11. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護		
6 7 8		12. 乳児期		講義
9 10 11		13. 幼児期		講義
1 2		14. 学童		講義
1 3		15. 思春期・青年期の小児		講義
1 4		16. 家族の特徴とアセスメント		講義
1 5		17. 子どもと家族を取り巻く社会 テスト		講義

専門分野Ⅱ／母性看護学（概論）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：母性の対象を女性の生涯を通して捉えること、また妊産婦と胎児を一体として捉えることを学ぶ
 リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康と権利）の概念から、種族保存だけでなく母性の役割を広くとらえ、健全なライフサイクルを送るための看護について学ぶ

授業科目	母性看護学	単元	概論・保健	講師	後藤久美子他 (助産師経験6年)	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1. 母性看護の意義と役割について理解する 2. 母性保健の動向と法律を理解する 3. 母性看護の対象を理解する 4. 母性看護技術の特徴を理解する 5. 女性のライフサイクルにおける各期の健康と看護を学ぶ 6. リプロダクティブヘルスケアを理解する							
必携テキスト 母性看護学①、母性看護学② 医学書院				準備教材 モデル人形、国民衛生の動向、 新聞記事、家族計画モデル、VTR			
評価方法 出席状況、客観テスト、レポート				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	9月	1. 母性看護の基盤となる概念	後藤	講義
2		A. 母性看護と周産期		
3		B. 母性看護における倫理（遺伝相談・不妊治療含む）		
4		2. 母性看護の対象をとり巻く社会の変遷と現状		
5		A. 母子保健の現状		
6		B. 母子保健の歴史		
7		C. 母子保健に関連する施策とその動向		
8		3. 母性看護の対象の理解		
9		4. 女性のライフステージ各期における看護		
10		A. ライフサイクルにおける女性の健康と看護		
11		B. 思春期の健康と看護		
12		C. 成熟期の健康と看護		
13		D. 更年期の健康と看護		
14		E. 老年期の健康と看護		
		5. リプロダクティブヘルスケア		
		A. 家族計画		
		B. 性感染症と予防		
		C. HIVに感染した女性に対する看護		
		D. 人工妊娠中絶と看護		
		E. 喫煙女性の健康と看護		
		F. 性暴力を受けた女性に対する看護		
		G. 児童虐待、先天異常への看護		
		H. 在日外国人の母子保健		
15		終講テスト		

専門分野Ⅱ／精神看護学（概論）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：精神の心の健康を維持増進するために、心の構造（自我の働きと防衛規制）を理解し、自己概念がどのように形成されていくかについて学ぶ。また、精神看護の考え方を理解し、対象の理解を深める方法について学習する

授業科目	精神看護学	単元	概論 精神保健 患者－看護師関係 精神看護の考え方	講師	宮本眞理 12(医師) 古畑貴子 18 (看護師経験 14 年)	単位数	1
						時間数	30
学習目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健とは何かを理解する 2. 適応と危機について学ぶ 3. 患者－看護者関係の理論について理解する 4. 精神看護における看護の役割を理解する 5. 自己の振り返りの方法としてのプロセスレコードについて理解する 6. 精神保健福祉の歴史について学び考える 							
必携テキスト				準備教材			
新体系精神看護学①概論と保健メヂカルフレンド社 新体系精神看護学②精神疾患をもつ人の看護 「実践に生かす看護理論 サイオ出版 看護コミュニケーション 医学書院				実習記録（プロセスレコード）			
評価方法				備考			
客観テスト、レポート、出席・態度 100点							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	11/4	1. 精神の健康と障害 1) 健康概念・予防・法律 2) 社会病理的現症	宮本眞	講義 プリント PC
2	11/11	2. 生活の場と精神保健 1) 家庭2) 学校3) 職場4) 地域5) 医療現場		
3	12/2	3. 心の危機とストレス 1) 危機理論とストレス理論		
4	12/16	2) ストレスへの対処（コーピング） 3) ストレスとしての心的外傷（トラウマ）		
5	1/6	4) 災害時の精神保健医療活動		
6	1/20	4. 精神医療の歴史と法律		
7	11月	5. 精神（心）を病むということ（メンタルヘルス）	古畑	講義 演習
8		6. 心の働きと人格形成		
9				
10		7. 人間関係の看護理論		
11		8. ケアの人間関係		
12				
13		患者－看護師関係の構築 (プロセスレコード)		
14		入院治療の意味を理解する		
15		治療的環境		
		テスト		

統合分野／医療安全Ⅰ（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：医療現場における事故防止と安全管理について理解する
国内外で多発する人的災害・自然災害の看護職の役割と課題を学ぶ

授業内容	看護の統合 と実践	単 元	医療安全Ⅰ	講師	岩田彩華 22 (看護師経験8年)	三橋弘志 8	単位数	1
							時間数	30
学習目標								
1. 医療安全に関する基本的な知識と看護師としての役割について理解する 2. 患者と自己の安全を守るために必要な知識・技術を習得する 3. 災害の定義及び災害医療の概要を理解する								
必携テキスト				準備教材				
医学書院：看護学概論・基礎看護技術Ⅱ 基礎・臨床看護技術				感染対策グッズ				
評価方法				備考				
客観テスト 態度面・課題(事前課題・レポート等)								

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	4月	感染防止の基本知識 ・感染とは ・看護師が感染防止する意義 ・感染経路 ・感染予防策	岩田	講義
2		スタンダードプリコーション ・標準予防策 ・个人防护用具 ・手指衛生のタイミング		講義
3		手洗い・手指消毒の実際 ・个人防护用具 着脱の方法 ・感染性廃棄物について		講義 演習
4				
5	6/4	看護師としての必要な感染対策	三橋	講義
6		医療安全とは ・ヒューマンエラー ・医療事故		講義
7		ヒヤリハットとは インシデントとは アクシデントとは		講義
8	10月	インシデントレポートの活用		講義
9		アクシデント時の対応(事例検討)		講義
10		洗浄・消毒・滅菌・無菌操作		講義・演習
11				
12	6/11	災害看護とは	三橋	講義
13	6/18	災害時の看護の視点 看護援助技術・保健	三橋	講義 講義
14	6/25	災害看護(事例検討)	三橋	講義
15		終講テスト / まとめ	岩田	